会長退任のごあいさつ

佐々木　孝

この度、5 年間の任務を終えて「造形教育をもりあげる会」の会長を辞任することとなりました。
当研究会が創設した後、世界は一変したかのように急速に変化し続けています。
そして、かつては生活様式が主流だった国際化も多様化し、SDGsをはじめ持続可能な共生社会がより一層求められています。
しかしながら、どのような時代がやって来ても、「造形教育をもりあげる会」の創設の主旨はゆるぎなく、「集うがつくる」参加者総意の研究姿勢と「憲章」に謳う方向性は、ゆるぎないものと信じています。
一方では、これまでにない新しい研究スタイルや研究運営マネージメントも、常にクリエイティブな手法が求められています。

そのような大事な時ではありましたが、当もりあげる会の規約上 3 年過ぎたところで、役員に退任を申し出たところ再任を薦められ、5 年が経過してしまいました。
更に、コロナ禍の影響もあり、造形教育研究大会は、2 年間閉ざしたままとなってしまいました。
そして、この 2 年間は、再起を図る充電期間と考え、コンパクトで小回りのきいた持続型の「実践交流会」を企画しましたが、やはりコロナ禍のため数回で頓挫してしまいました。
この 2 年間を温故知新（古きを訪ねて新しきを知る）チャンスに置き換え、運営委員の皆さんに了解を得てバトンタッチしたいと決意しました。
今は、若い力でHPを開設したり受・配信方法を駆使したり、柔軟な発想で進行しようとしています。

1972年「造形教育をもりあげる会」に参画して以来の長い月日でした。
とりわけこの 5 年間は、皆様方の温かいご支援に心から感謝申し上げます。

既に皆様には、お伝えしていましたように、次期会長は、5 年間事務局長として会を支え、「造形教育をもりあげる会」に周知した「武田晴信」氏に託したいと思います。
これまで同様、皆さんのご支援をお願い申し上げます。
今後とも愛する「造形教育をもりあげる会」の発展にどうぞよろしくお願い申し上げます。

（2021年 9 月 10日）